

1. 大阪港港湾計画の一部変更(案)について④

■変更内容

②港湾の効率的な運営に関する事項の変更(区域内施設の変更)

フェリー埠頭計画の変更に対応し、「効率的な運営を特に促進する区域」を次のとおり計画する。

[効率的な運営を特に促進する区域]

南港地区(南港南)

水深-7.5m 岸壁3バース(F1,3,4) **延長 710m** (フェリー用)

埠頭用地 8ha (旅客施設用地、荷捌施設用地及び保管施設用地)

延長690m→710m

③国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設の変更

今回計画する施設及び既に計画されている施設のうち、国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設は次のとおりである。

施設名	諸元	備考
F1,3,4	水深:-7.5m、3バース、 延長710m	既定計画の変更計画
泊地	水深:-7.5m、面積0.5ha	既定計画

延長690m→710m

2. フェリー新造船計画、及びそれによる効果

■背景(フェリー会社の意向等)

- 四国航路を運航するフェリー会社では、平成30年3月に投入する新造船を大型化する予定
- 当該フェリー会社から、阪神国際港湾（株）に対し「大阪港においても大型化する新造船に対応可能な港湾施設を整備されたい」との要望あり
- その要望を受け、阪神国際港湾（株）から港湾管理者（大阪市）に対し、大阪港港湾計画の変更を提案（港湾法第3条の4）

■新造船のスペック

	諸元			備考
	総トン数	全長	全幅	
既存船	9,917GT	163.57m	25.6m	平成5年12月建造
	9,975GT	163.57m	25.6m	平成11年4月建造
新造船(2隻)	15,000GT	199.9m	27.5m	平成30年就航予定

※新造船の各数値は予定のものです。

■新造船計画による効果

CO2排出量の削減率 : 在来船と比較して **20%削減**

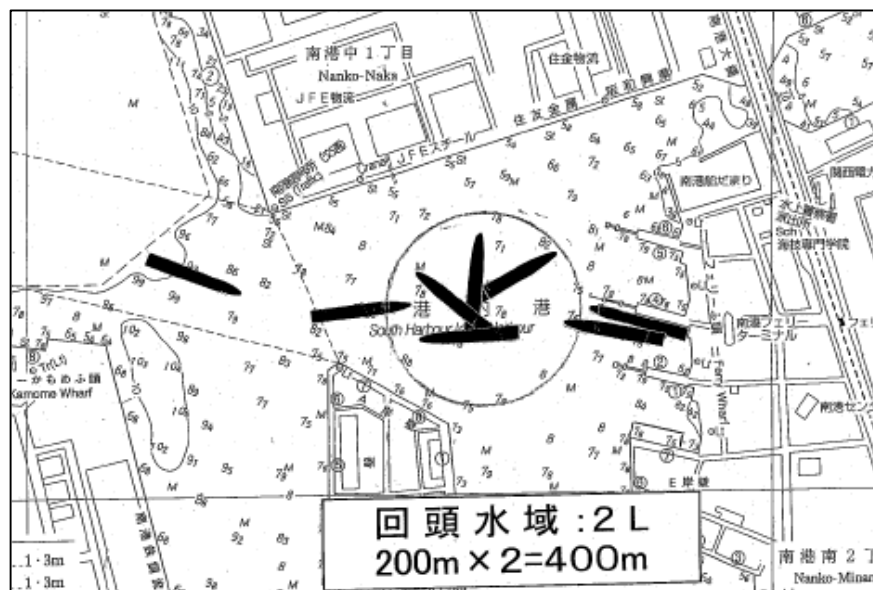
エネルギー消費量の削減率 : 在来船と比較して **20%削減**

操船性能の向上 → スムーズな離着棧操船

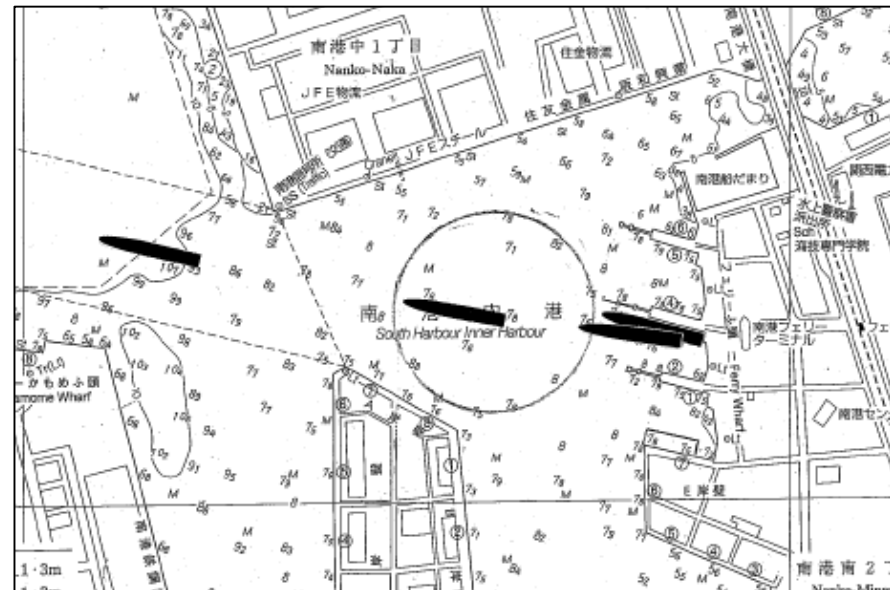
3. その他事項

■船舶の航行安全対策について

・F3入出港時、回頭水域2L確保



入港時(左回頭着岸時)



出港時

■環境への影響について

今回の計画変更之际、フェリー貨物量の実績値が減少傾向にある中、新造フェリーを大型化しても、フェリー貨物量及び関連車両数については、既定計画の範囲内であると見込む。

つまり、今回計画に伴う環境負荷は軽微であることから、今回計画が周辺環境に与える影響は軽微であると考えられる。

4. 今後の予定

